青空を追いかけ星空に恋した ふくちの夏。

福智山に入道雲。日王山には子どもたち。青空を太陽が、夜空を花火が焦がしたふくちの夏。子どもたちの貴重な体験や華麗なステージが、同じ空の下で、まちと人のページにつづられました。それぞれに過ぎ去った、さまざまな夏…思い出のふくちの夏のイベントをリポートします。

memory of summer 2007

水面に浮かぶ夏夜見上げた水と灯火の夕べ。

ふくちの夏、愛おしんだ夏。

待ちに待った開催です。昨年惜しくも雨で中止となった「水と灯火の夕べ」。「ミズトモ」の愛称で旧金田町から継続する夏のメーンイベントが、ついに福智町で初開催を迎えました。彦山川と中元寺川の合流地点、河川敷シンボルゾーンを舞台に、露店が弧を描いて並び、人々の到着を待ちわびていました。日が落ちるころ、黄・紺・水色・黄緑など、あでやかな浴衣を粋に着流した踊り手さんが、各地区から集結。開会あいさつの後、やぐらを中心に円が組まれ、およそ150人の輪による4曲の総踊りが披露されました。開幕を飾ったのは今回が初披露となる「福智音頭」。合併を記に制作されたこの曲に振り付けを加え、各団体がビデオを複製し、練習した踊りです。ピタリとそろった身のこなしが、その成果を物語っていました。日も完全に落ち、涼しい風が水面から吹いてきたころ、会場横の彦山川でしめやかに「灯ろう流し」が行われ、各世帯が故人の霊を見送りました。フィナーレは大輪の花火が夜空を彩り、会場に集まった1500人を魅了。人とふれあい、水に親しみ、夜空を見上げた夏の情緒あふれるイベントは、町の空と人々の胸に熱く刻まれました。

ひしめく露店では、子どもたちも目を輝かせていました。

故人をしのびながら川に浮かべた「灯ろう流し」。その後、感傷的な場面をなぐさめるように、花火が夜空を焦がしました。

約1500人が見上げて歓声をあげた810発の打ち上げ花火。町のほぼ中央から上げられた大輪は、会場から離れた所からも楽しめ、自宅から眺めた人も多かったようです。

「福智音頭」「花火音頭」「嘉穂劇場音頭」「炭坑節」のほか、地域ならではの「くどき」を披露した総踊り。スペシャルゲストに、歌手の藤かおりさんを迎え、美声とともに輪になって踊りました。

INTERVIEW

和多和可江先生の振り付けに携わり、この場で初披露できたことを光栄に思います。今後も毎年踊りたいです。

福智音頭の初披露に参画した **原田 和子**さん（伊方）